

ティーチング・ステートメント

所属 北海道科学大学

名前 大江 亮介

作成日 2023年3月22日

【責任】

工学部情報工学科に所属し、専門科目である情報工学を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動はプログラミング及び人工知能関連科目（プログラミング開発基礎・知能科学・知能ソフトウェア演習など）の担当、卒業研究ゼミ生の研究支援である。

【理念】

学生には社会の規範を守り、身に付けた知識を専門分野で活かすための創意工夫ができる人材になって欲しい。情報通信技術の発展が著しい現代において、人工知能を含めた情報分野はすでにインフラと呼ぶにふさわしいものとなっている。社会を支える基盤技術に関わる技術者は、正しい倫理観を持って社会的責任を果たすとともに、人々の生活を豊かにするため日々新たな技術を身に付けるべく切磋琢磨する必要がある。

こうした素養は一長一短で身に付くものではなく、学生時代からの習慣として体得すべきものである。学内の規律を守ることは当然として、将来に向けた準備期間において為すべきことを自覚し、明確な意思を持って実行する態度を身に付けることが重要である。このような学生の学びを実現するために、知識の獲得だけに留まらない授業を提供するとともに、きめ細かなコミュニケーションを通して学生の積極的に学ぼうとする意欲を引き出せる教員になりたい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、学生が「社会規範を守る」、「授業時間を有効に活用する」、「知識を応用する訓練を積む」、「学びに対して意欲的に取り組む」という方針で教

育を行っている。また、教員自身の態度として「コミュニケーション機会の創出」という方針で活動している。

「社会規範を守る」

- ゼミ生の研究支援において、技術の有用性だけでなく危険性についても意識させるとともに、ルールを厳守して研究活動を行うよう指導している。
- 授業の開始・終了時間の厳守や挨拶等、教員側が学生の模範となる振る舞いを心がけている。

「授業時間を有効に活用する」

- 授業では、課題や小テストの実施を全体の理解度レベルに合わせてと理解度の高い学生が時間を持て余し途中退出を希望することが多くなるため、任意提出用として発展的課題を用意し、授業時間内でのやりがいを失わせない工夫を行っている。

「知識を応用する訓練を積む」

- 授業では、知識の理解を目的とした説明の後に、必ず理解を深めるための課題を課している。課題は知識理解を問う小テスト形式ではなく、知識の応用を目指した問題への取り組みとしている。
- ゼミ生の研究支援では、研究に関する方法論を与えることはせず、文献調査等で収集した情報を用いて解決策を提案し、その実現に向けた計画を立案することを重視している。

「学びに対して意欲的に取り組む」

- 授業では、任意解答型の課題を多く用意し、自ら進んで学習に取り組むやりがいを実感させるとともに、成功体験の積み重ねにより学習意欲の向上を図っている。
- ゼミ生の研究支援では、研究テーマや専門分野を指定せず、自らの興味や意欲によって自発的にテーマを選択することを基本としている。また、在学中の学会発表の

機会を確保し、希望に応じて発表が可能となるようスケジューリングを行っている。

「コミュニケーション機会の創出」

- 授業・ゼミ生の研究支援の両面において、学生とのコミュニケーションを密に取り、希望や躓き等を聞き取り実施に反映させている。

【評価・成果】

- 授業評価アンケートでは、教員の授業に対する工夫や満足度で平均値以上の評価を得ている。
- 高校での出前授業において、受講した高校生から、「有益な体験ができた」「情報分野への学習意欲が高まった」との評価を得ている。
- 卒業研究において優れた取り組みを行った一部の学生が研究成果を学会で発表し、優秀プレゼンテーション賞を受賞している。

【目標】

- オンライン授業で得られた知見を活かしてリアルタイムコメント等の対面授業でも効果的なツールや仕組みを導入し、より学生の意見を聞きやすい授業環境を構築する。(2023年4月)
- 教育ノウハウを蓄積することにより、学習やコミュニケーションを苦手とする学生もサポートできるようになる。